

会派先進地視察報告書

- ◇ 10月2日（火）「佐賀県武雄市」
スマイル学習について
- ◇ 10月3日（水）「福岡県春日市」
春日市福祉ぱれっと館について

2018年10月

知多市議会「市民クラブ」

市民クラブ先進地視察報告書

日 時	平成 30 年 10 月 2 日 (火) 午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
視 察 先	佐賀県武雄市
視 察 項 目	スマイル学習について
視 察 者	市民クラブ (夏目 豊、荻田信孝、島崎昭三、古俣泰浩、藤井貴範、林 正則)
視 察 内 容	<p>平成27年に就任した市長は、「教育改革・子育て支援」を政策の重要な柱と位置付け、未来ある全ての子どもたちに充実した学びの環境をつくり、ワンランク上の子育て、教育環境の整備を進めている。これまでに電子黒板の導入を平成21年度から開始し、普通教室への整備率100パーセントを達成するとともに、タブレット端末については、29年9月に小学校4年生と全中学生に導入を行い、全小中学生1人1台の整備を完了している。</p> <p>このタブレット端末を活用して実施しているのが「スマイル学習」である。これまでの学習は、一斉授業～グループ学習～一斉授業といった流れで行い、復習は家庭でのひとり学習であったが、スマイル学習では、タブレット端末の動画を視聴して家庭で予習し、学校で学ぶ「反転授業」の手法を取り入れている。</p> <p>スマイル学習に取り組む目的は、児童・生徒がより意欲的に授業に臨めること、教員が児童・生徒の実態を正確に把握し授業に臨めること、授業で「協働的な問題解決力」を育成することである。</p> <p>今後の課題は、アンケート結果から、学校によってスマイル学習の実施にばらつきがあることがわかったため、確かな学力と協働的、発展的な学習へ導くべく、ばらつきを少なくすることである。</p>
所 感	<p>スマイル学習のベースとなる、ICT教育機器の整備の一環として、電子黒板の導入が始まり、普通教室に100パーセント設置されるとともに、タブレット端末の整備は、全小中学校1人1台貸与されていた。</p> <p>スマイル学習は、学校で授業を受けて自宅で復習をする従来の形態から、事前に自宅でタブレット端末の動画を視聴して予習し、学校で学ぶという反転学習の形態に転換しており、タブレット端末を活用した学習支援と主体的な学びの実現に向けた取り組みが印象的だった。</p> <p>市長の重点政策である「教育改革・子育て支援」では、未来ある全ての子どもたちに充実した学びの環境をつくり、ワンランク上の子育て、教育環境の整備を進めるとしており、市長の強いリーダーシップを感じた。</p> <p>本市においても、教育環境の整備を進める上で、教育へのICTの導入について議論されているが、予算や運用面の課題が残されており、実現には至っていない。今回の視察により、ICT化に向けた手法を学ぶことができた。</p>

市民クラブ先進地視察報告書

日 時	平成 30 年 10 月 3 日 (水) 午前 10 時から正午まで
視 察 先	福岡県春日市
視 察 項 目	春日市福祉ぱれっと館について
視 察 者	市民クラブ (夏目 豊、荻田信孝、島崎昭三、古俣泰浩、藤井貴範、林 正則)
視 察 内 容	<p>(1) 整備の経緯について</p> <p>春日市内の障がい者施設としては重度心身障害者通園施設や知的障害者小規模作業所があったが、いずれも老朽化などが課題となっていた。また、療育施設が市内になく、障がい者が十分な訓練が受けられない状況であった。</p> <p>こうした課題を解決するため、これら 3 つの施設を一つの建物に集約した「福祉ぱれっと館」を建設し、平成12年 6 月に開所した。</p> <p>(2) 内容について</p> <p>ア 1 階</p> <p>(ア) 交流スペース……障がいのある人もない人も自由に交流する場所。2 階の「ゆり工房」でつくった製品も販売</p> <p>(イ) 障害者生活支援センター「にじ」……障がい者を対象に、生活するための訓練や生活に必要な介護などを行っている。</p> <p>イ 2 階 障害者就労支援センター「ゆり工房」……障がい者の福祉的就労の機会の提供と一般就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練を行う場所。パン、洋菓子、木工製品などの製造を行っている。</p> <p>ウ 3 階 療育訓練施設「くれよんクラブ」……心身の発達に遅れのある、またはそのおそれのある就学前の児童と保護者を対象に、療育訓練、療育相談を実施</p> <p>(3) 効果及び市民の反応について</p> <p>ア 複合施設にしたことによるメリット</p> <p>食堂、厨房が共同利用できる、施設間の相互実習ができる、施設職員の協力体制を確立しやすい、といったことが挙げられる。</p> <p>イ 市民の反応</p> <p>「ゆり工房」では、利用者がそれぞれの特性に合った作業をしており、皆生き生きとしている。</p> <p>(4) 課題について</p> <p>幼少期の障害に関する専門的知見を持つ職員が不足している。</p>
所 感	<p>福祉ぱれっと館は、分散していた障がい者施設を一つに集約したことで、幼児期、家庭生活、就労支援と、人生のそれぞれのステージに合わせたケアが一か所のできるというメリットを生み出していた。また、交流スペースで授産製品を販売することで、障がいのある人もない人も気軽に出入りができ、製造者と消費者の顔が互いに見えるようになってきていることは特筆すべき点であった。</p> <p>今後、知多市でも公共施設再配置計画が進められる中で、行政課題の解決を目的に建設された複合施設の視察ができ、今後の取り組みの参考になった。</p>